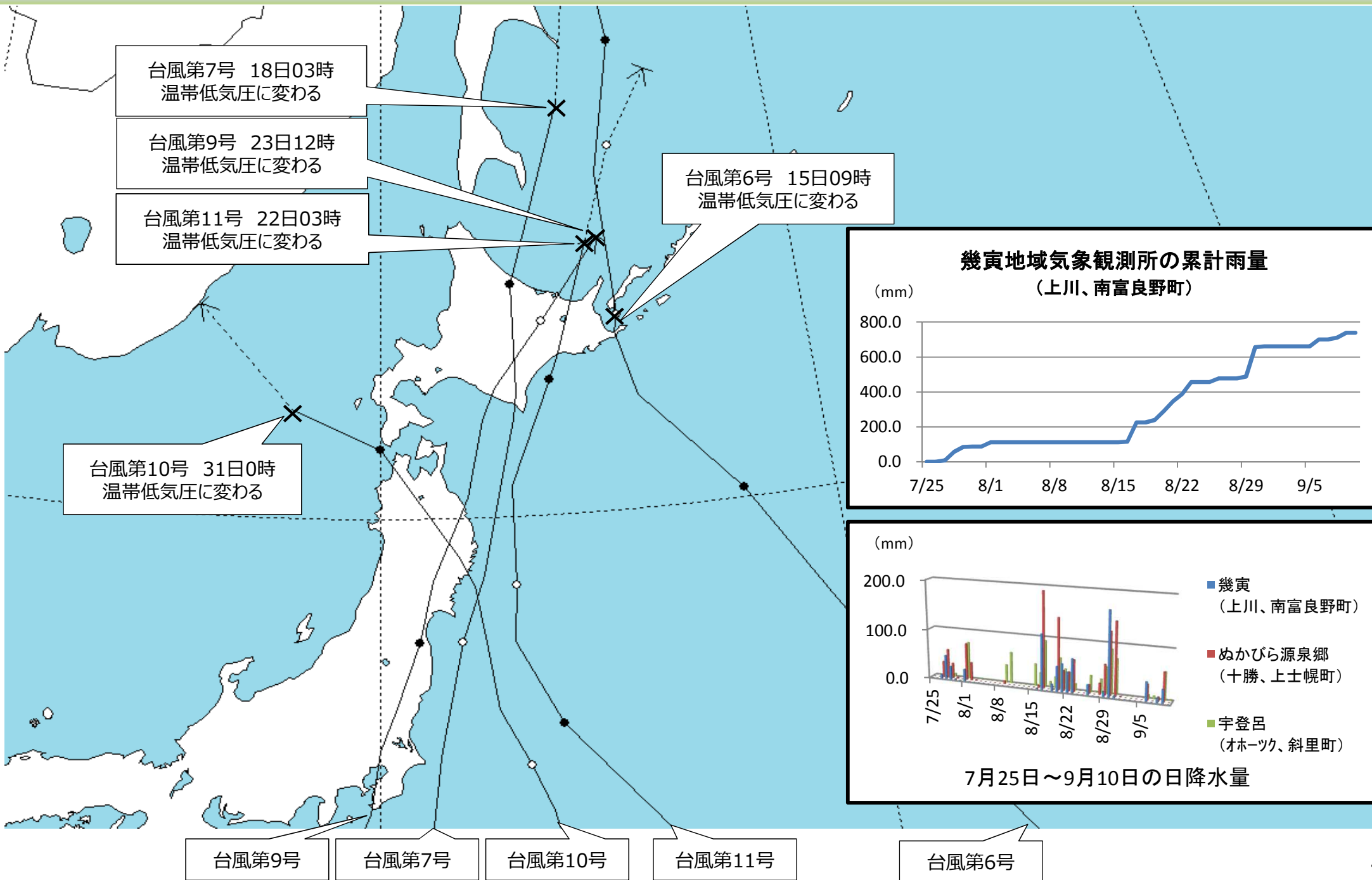


平成28年8月を中心とした 大雨について ～相次いだ台風と前線停滞～

平成29年1月19日
札幌管区気象台

北海道に接近・通過した台風（平成28年8月）



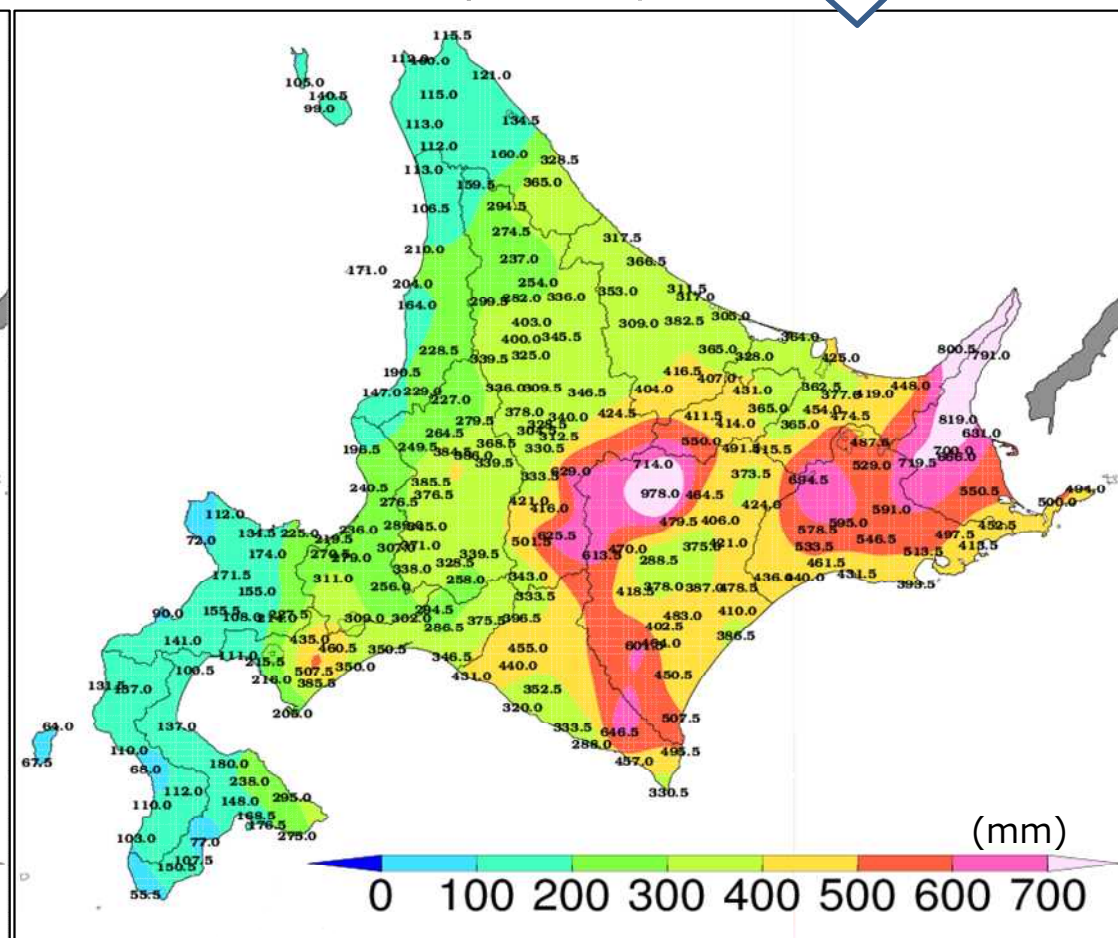
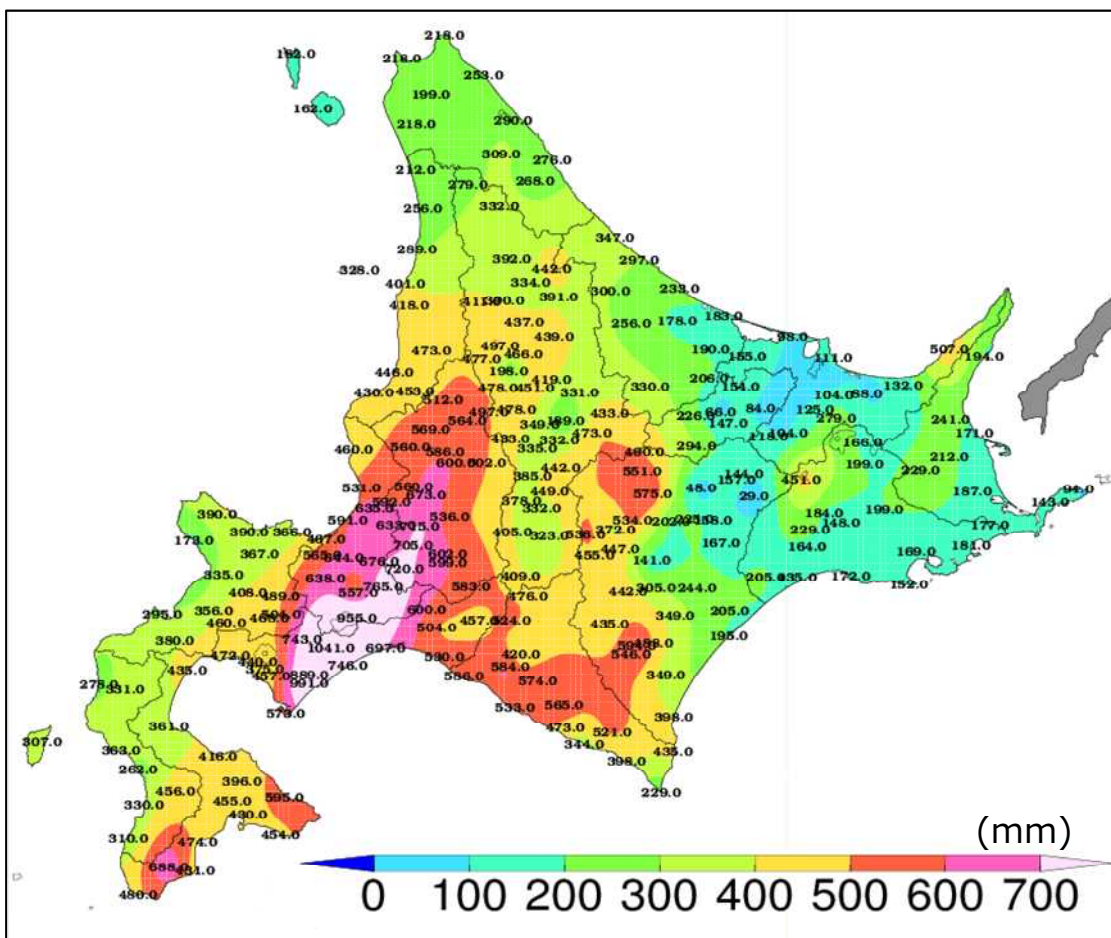
昭和56年8月と平成28年8月の北海道内の雨量分布

アメダスによる北海道内における雨量分布

道内アメダス225地点中、“**89地点**”で、**月の降水量の極値（1位）更新**し、道東の太平洋側の広い地域で平年の2～4倍となる500ミリを超える降水量となった。

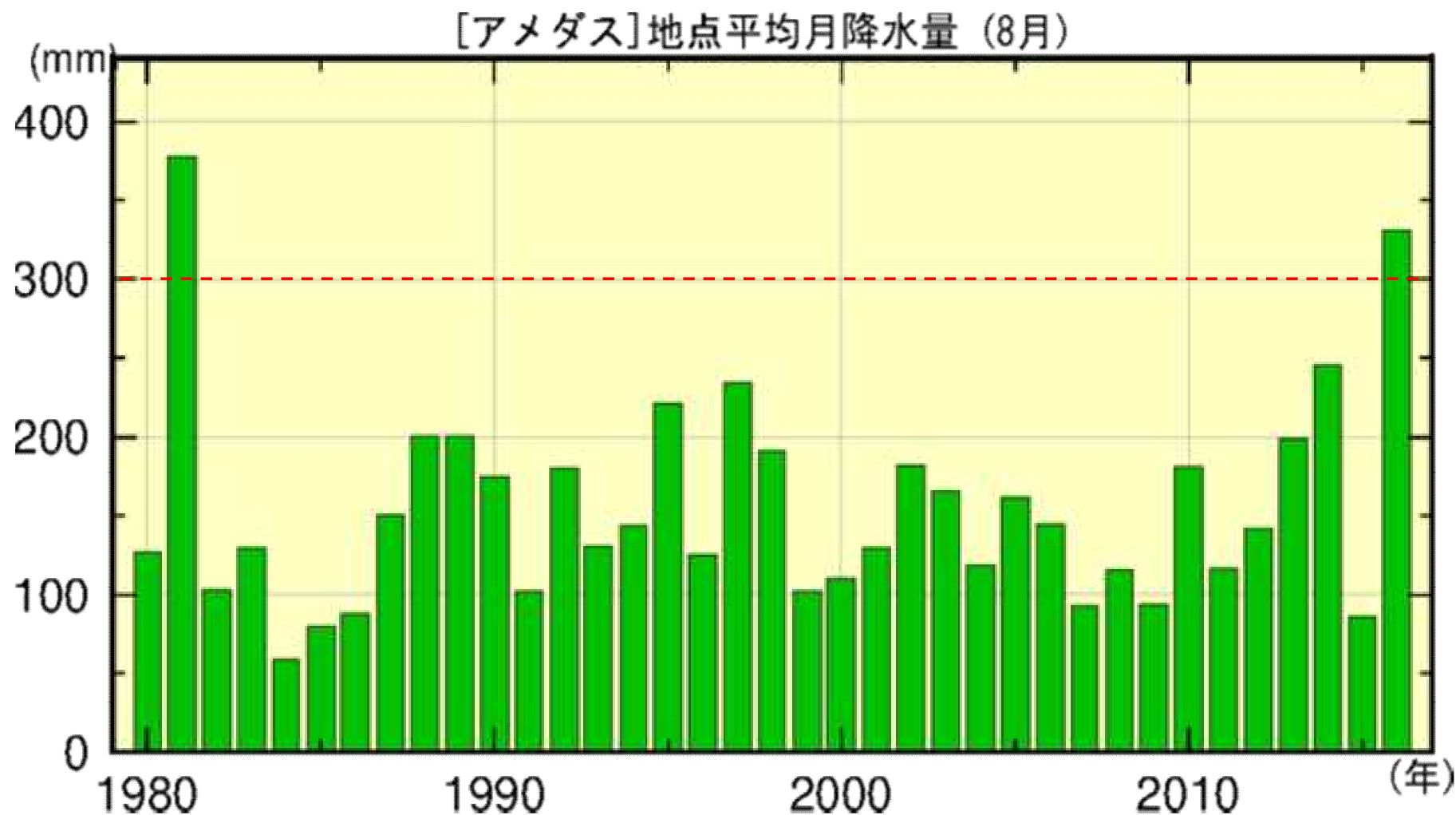
昭和56年8月（「56水害」）

平成28年8月



石狩・空知・胆振・日高地方を中心に500ミリ以上

十勝・釧路・根室・日高地方を中心に500ミリ以上



1981年（昭和56年）以来の記録的な降水量

～太平洋高気圧は日本付近への張り出しが弱く、台風が北上しやすい状況～

記録的な大雨となった要因の1つとして、平成28年8月は太平洋高気圧の日本付近への張り出しが弱かったことが挙げられる。

本年と平年の8月の天気図の差において、カムチャツカ半島から千島の東にかけて気圧が高かった。

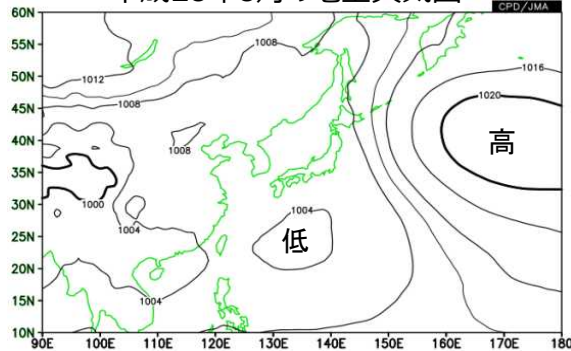
(暖色は平年より気圧が高いことを示す)

一方、日本付近は気圧が低かった。(寒色は平年より気圧が低いことを示す)

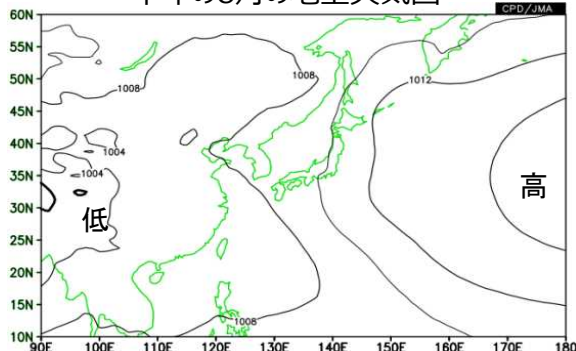
つまり、平成28年8月は太平洋高気圧が日本のはるか東で強かったものの、日本付近への張り出しは弱かったと言える。

このため、太平洋高気圧の縁に沿って台風が北海道へと北上しやすい状況であり、南から暖かく湿った空気が北海道に入りやすかったため、前線の活動も活発となった。

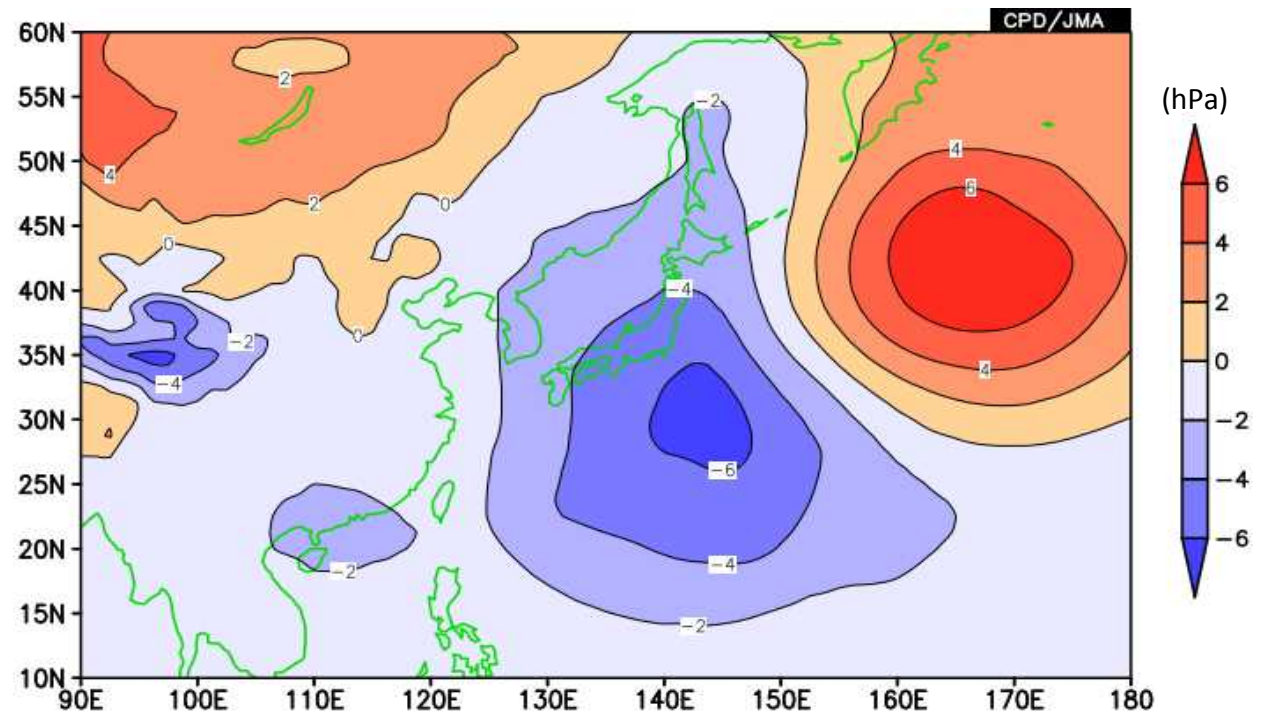
平成28年8月の地上天気図



平年の8月の地上天気図

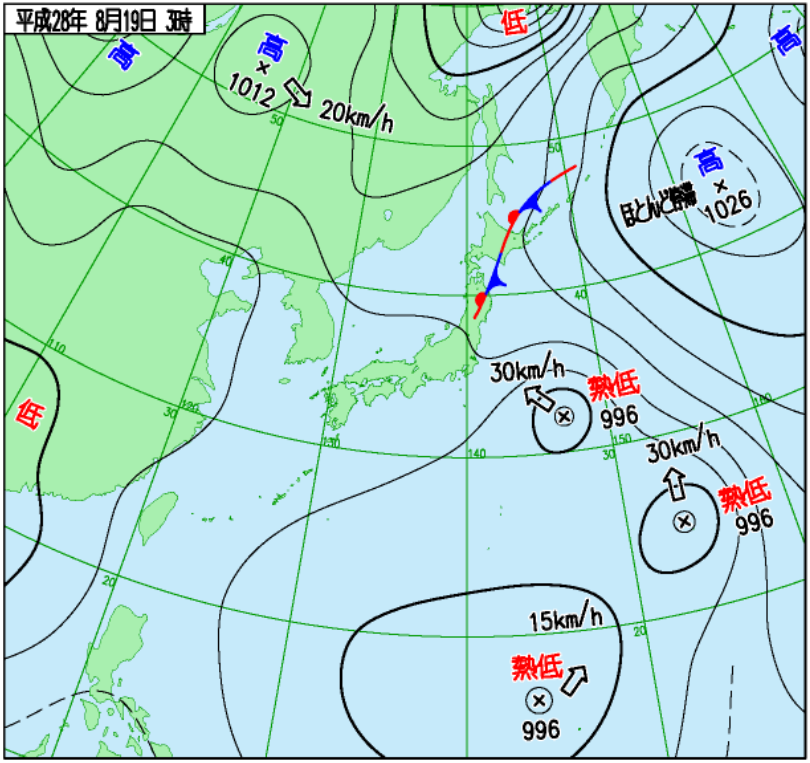


本年と平年の8月の地上天気図における気圧の差

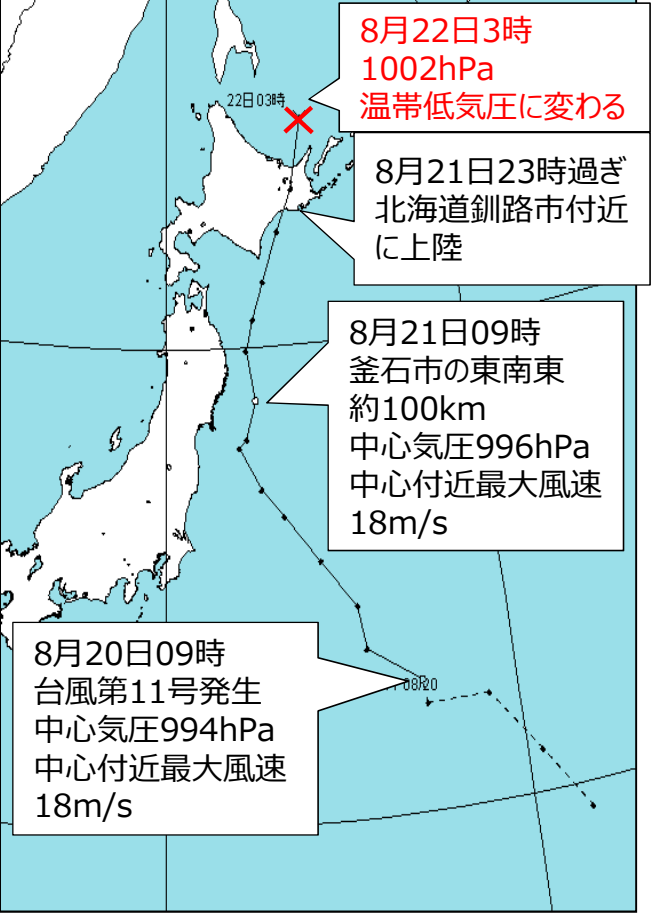


前線と台風第11号及び第9号の動き (8月20日～23日)

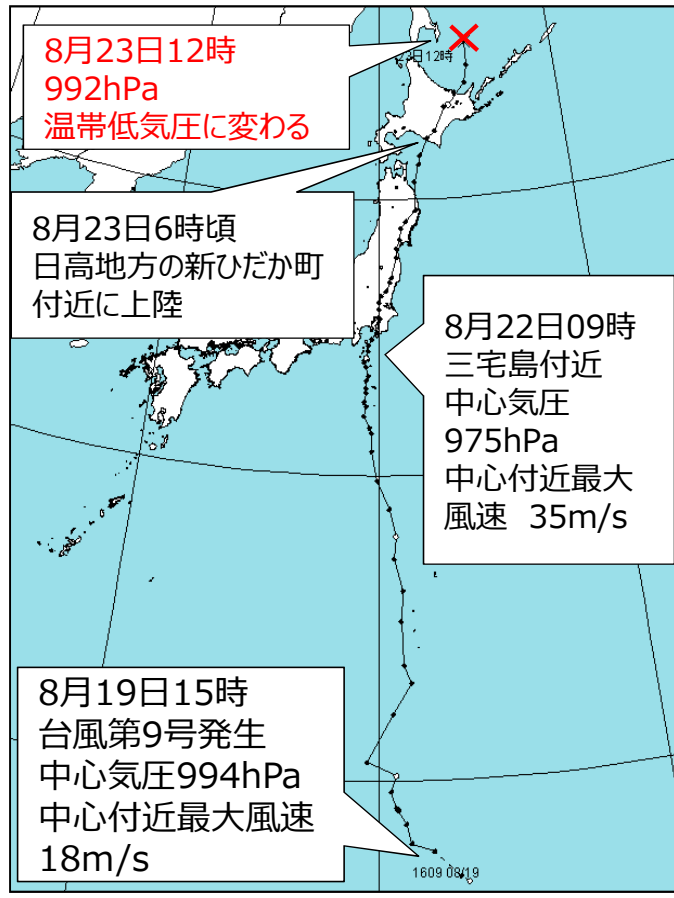
北海道付近には前線が停滞しており、一方、関東の南東海上には、台風11号があり、この台風から暖かく湿った空気が北海道付近に流入し前線の活動が活発となり、20日朝から前線近傍の地域では、断続的に30mm前後の強い雨となった。21日には、台風第11号が三陸沖を北上し、夜には釧路市付近に上陸、22日未明にかけて、オホーツク海に進んだ。一方、台風第9号は22日朝、関東沖に進んだあと、関東から東北地方の沿岸を北上し、23日6時頃日高地方に上陸、その後北海道を縦断する形で12時にはオホーツク海で温帯低気圧に変わった。20日～23日にかけての前線と台風による大雨により、上川地方、空知地方、網走・北見・紋別地方の観測所では、降水量の極値を更新した。この記録的な大雨の影響で多くの河川の氾濫や土砂災害が発生し、多くの市町村で数日間にわたり避難指示・避難勧告が発令された。



地上天気図 (8月19日03時～8月23日21時)



台風第11号経路図



台風第9号経路図

前線と台風第11号、9号による総降水量（8月20日～23日）

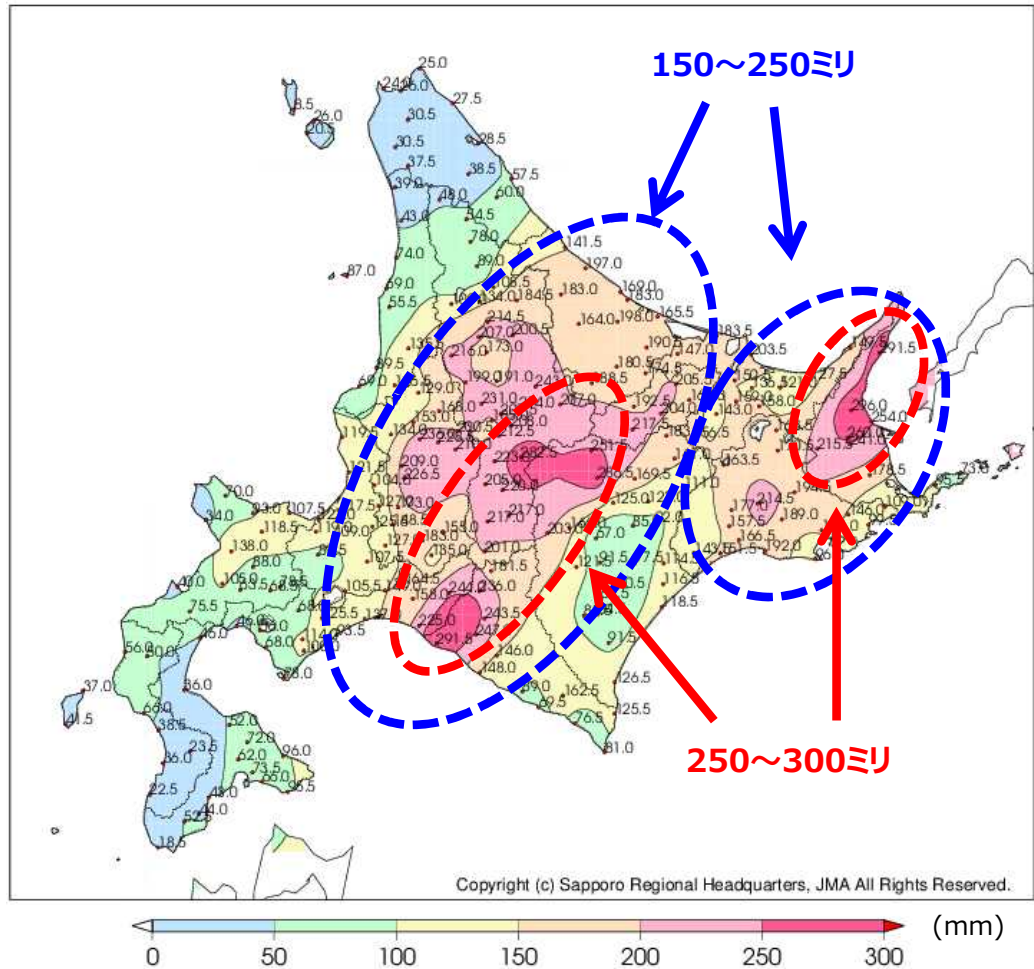


増水した石狩川水系美瑛川（旭川市西神楽地区）
气象台職員撮影（2016.8.23）



氾濫した石狩川（深川市納内地区）
气象台職員撮影（2016.8.23）

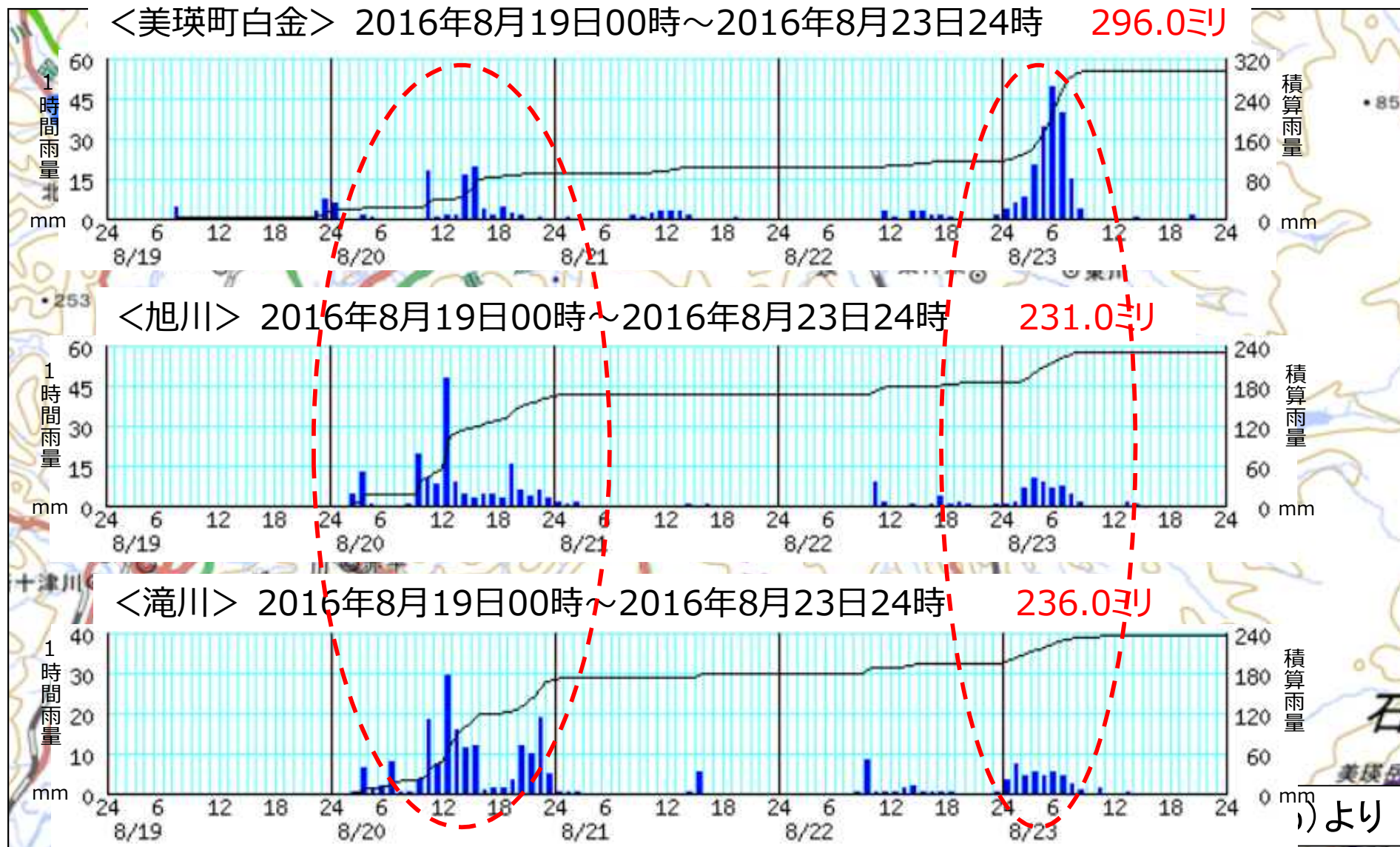
前線と台風第11号及び台風第9号による総雨量 （8月20日00時から24日00時）



1. 標津町糸楡別 296.0
 2. 羅臼 291.5
 3. 日高町門別 291.5
 4. 上士幌町ぬかびら源泉郷 286.5
 5. 美瑛町白金 282.5
 6. 中標津空港 260.0
 7. 標津町北2条 254.0
 8. 上士幌町三又 251.5
 9. 新冠町新和 247.0
 10. むかわ町穂別 244.0
- (mm)

総雨量は、宗谷地方と渡島・檜山地方を除きほぼ全道の広い範囲で150～250mmの雨となり、特に上川中部・南部、中空知、日高西部、根室北部などでは、250～300mmの雨を観測した。

滝川市と石狩川上流域の降水量（8月20日～23日）



8月20日 前線による大雨、8月23日 台風第9号による大雨

8月20日の日降水量 滝川 171ミリ(観測史上2位、1位は196ミリ 1981年8月4日)

旭川 164ミリ(観測史上4位 2位は167ミリ 1981年8月4日)

8月23日の日降水量 美瑛町白金 180ミリ(観測史上1位)